

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202248		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	岡山県 倉敷市 平田155-190		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の思いを一番に考え、利用者のペースで暮らせるようにしています。また、自施設調理なので利用者の好みに合わせた物をメニューに加えて、楽しく美味しい食事になるようにしています。法人内にクリニックがあるので、健康管理が出来ていて安心して暮らせます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の強みと自負する食事に関しては、自施設調理の利点を活かし、個々の希望や嗜好に合わせた柔軟な個別対応を行っています。毎食ほとんどの入居者が完食している様子から、食事に対する満足度が高い事が窺えます。医療面では、協力医と昼夜問わず連絡が取れ、必要に応じて往診が受けられる等の医療体制を構築しており、入居者や家族の安心感に繋がっています。入居者が居心地よく過ごす事が出来るように、少人数で過ごせる空間を作る間仕切りの活用や、入居者のペースを大切にされた職員の関わり等、環境上の工夫や職員の配慮が見受けられました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員の目に留まるようにホールに貼っている。また、一人ひとりが、その人らしく自分のペースで暮らせて、毎日楽しく暮らせることができるように支援している。	「個人の尊厳と生活の質を保ちながら『その人』が穏やかに生活できるホームを目指す」という理念に添い、家庭的な雰囲気と入居者自身のペースを大切にした支援の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は、感染対策として難しいですが、町内会との関係は、間接的にでも交流できている。	感染症流行の為外出を自粛しており、以前の様に散歩中に地域住民と立ち話をする機会はありませんが、近所の方が花を持って来てくれ、フロアに飾っています。間接的にでも地域との繋がりが途切れない取り組みをしている様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染拡大防止のため、地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、開催を中止していましたが、令和5年7月から開催できるようになりました。ホームでの生活や取り組みを報告し、皆様からの評価、ご意見をいただき、運営に役立てている。	民生児童委員等、地域の関係者が参加しています。事業所の活動報告に対する意見を運営に役立てたり、高齢者見守り活動を行う地域住民からの介護相談に応える等、地域貢献に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は担当者に連絡し、指導・助言を仰いでおり、必要に応じて相談を行っている。	手続き等で行政窓口に行く際は、担当者に事業所の実情を伝えたりしながら、関係構築に努めています。また、生活保護受給者のケースワーカーには必要に応じて状況報告を行い、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のすぐ外が階段なので、事故防止のため施錠しているが、外に出たい時は職員が付き添い対応している。問題が発生した時はそのつど工夫して、拘束しないようにしている。	今年度、4月と8月に身体拘束に関する内部研修等を実施し、正しい知識と理解に努めています。入居者に夜間の不眠が見られた場合、その都度理由や背景について職員間で話し合っって対応を検討しており、身体拘束に繋がらないケアを実践している様子が窺えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、虐待防止委員会による日々の確認により、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は、権利擁護に関する制度の研修と勉強会を実施しており、現在成年後見制度を利用している方がいます。また、必要と思われる方が活用出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し、不安や疑問が解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や電話で、意見・要望を聞き出し、実行できるようにしている。	面会頻度の少ない家族には、手紙を不定期(概ね2カ月に1回)に郵送する等、生活の様子を伝える取り組みを行っています。面会制限によって職員と家族が顔を合わせる機会が減っている点が、意見・要望を聞く上での課題とも感じています。	入居者の生活や、事業所の取り組みが今より家族に伝わる情報発信の工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、意見や提案を言える関係が築けている。また管理者だけでは対応できない時は上司に相談している。	管理者は日頃のコミュニケーションを通じて、職員の意見や提案を把握し、法人会議に報告しています。今年度からはグループ長と職員の個別面談を行い、運営に関する意見や提案を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例報告や管理者会議等で現場の状況を把握しており、職場環境・条件の整備や改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加するように努めている。また費用に関しても法人が負担し、研修を受けやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過ということもあり、交流はありませんでした。コロナ感染状況に応じて、今後検討していく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人や家族から、生活歴や現状をお聞きし、本人の安心が得られるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思いをしっかり聞いて、信頼が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺い、その時に必要なサービスが、利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、本人に出来ることは、職員と一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をとりあい、本人が今望んでいることを伝え、家族に出来ることは協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・手紙などで連絡が取れるようにして、関係が途切れないように支援しています。	生活歴を参考に、馴染みの関係把握に努めています。入居者から手紙を出したいと要望があった場合、封筒の準備や宛名書きを職員がサポートし、馴染みの人との関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、コミュニケーションが取れるように、席の配置に気をつけている。また、食事や家事などの場面で、少しずつ会話されることが増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された、家族の方からの相談に応じたり、入院先や退居先からの問い合わせに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、気持ちを伝え易いように、その場ですぐに聞いている。また、自分から希望を伝えるにくい人には、本人の立場になって考えている。	希望や意向を言葉で表出しにくい入居者には、食事量や行動、表情等をよく観察し、本人の視点に立った意向の把握に努めています。また、職員間で気づいた事を共有して、最適な支援を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からは、入居前に生活歴を伺っており。また、面会時やそのつど本人や家族から情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康状態・食事量・水分量・排泄をチェックしている。また、職員は一人ひとりの、出来る事出来ない事を把握し、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族の希望や意見を聞き、本人にとってより良く暮らせるためには、どうすればいいかを、関係職員と話し合い作成している。また、本人に変化や希望があれば見直しをしている。	カンファレンスに家族が同席できない場合、主に電話で意見・要望を確認し、計画に反映しています。職員には、日頃の業務の中で意見を聞き、気づきやアイデアを反映する事で本人に寄り添った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一緒に暮らしている、職員にしか分からない変化や気づきを、記録すると共に、それをより良いケアに活かし、介護計画の見直しにも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のことを考え、本人が一番喜ぶことを大切にして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のため、地域行事への参加ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの医師との関係を大事にし、協力医療機関を利用する時は、本人と家族の意向を得て、定期受診や必要時に受診できるように支援している。また、外部の医療機関を利用する時は、受診援助を行っている。	協力医療機関の藤戸クリニックがかかりつけ医となり、訪問診療を行っています。その他、訪問歯科や訪問看護等、必要な医療を訪問で受けられる体制が整備されています。専門医を受診した際は、その都度家族に結果報告を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に接している職員が、利用者の変化を看護師に相談し、医療が受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院の時には、現状やその後について、家族や医師と情報交換をし、相談にも応じている。また、病院の関係者とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者に変化があった場合、職員・家族・医療関係者・他施設等と連絡を取り合い現状を共有し、地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	終末期支援は行わない方針です。入居前にその旨を説明しており、入居後に重度化が見込まれた場合、主治医を交えて本人並びに家族への説明する機会を設け、早期に今後の方向性について相談する体制をとっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、研修や訓練を行い、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と共に、避難訓練を実施している。	近年、水害を想定した避難訓練を重点的に実施しています。管理者は隣接する家屋3件に、災害発生時の可能な範囲での協力をお願いしており、地域の協力体制を築く働きかけが見受けられます。	火災や地震等、様々な自然災害を想定した訓練の実施と、協力を要請している地域住民も交えた避難訓練が実現できる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時や入浴・排泄時など、羞恥心に配慮するなど、プライバシーに気をつけている。	入居者の居室に入室する際は、ノックと声かけを心掛けて取り組んでいます。トイレ誘導や介助時の声かけは、周囲に聞こえないように声の大きさに配慮する等、本人の気持ちを考えた、さりげない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや介助時に、本人が望んでいることを職員が、何気ない言葉や動作で、本人の希望を引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まっている行事でも、利用者の希望で変える事もあり、利用者の思いに添った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や洋服選び、または購入時に、本人の気に入ったものを買う等、おしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好きなものを取り入れるなど、利用者にとって楽しみの1つになっている。また、手伝いのできる人には参加してもらい、力を発揮してもらっている。	毎食職員の手料理を提供しています。献立に入居者の要望を取り入れる事に加え、個別に味付けや料理を変える等、個々の嗜好に合わせた方法で柔軟に提供しており、食事を楽しむ工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者、一人ひとりの好みを把握しており、摂取量も記録して、食べれない人には工夫して、必要量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず自分で出来る人には自分でしてもらい、出来ない人には介助にて、うがいや歯磨きなど、口腔ケアを実施している。また、歯科衛生士のアドバイスをもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それぞれの排泄時間に合わせ、声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っています。共有フロアのトイレ間口が狭い為、車椅子の入居者を介助する事が難しい環境ですが、ポータブルトイレを用いる等、可能な限りトイレでの排泄ができるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを実施しており、本人の状態に応じて、食材や水分を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	そのつど利用者の意向を聞き、対応すると同時に、入浴時も本人が安心して入浴できるように、希望に添った介助の仕方をするように支援している。	週2回の入浴日を決めていますが、本人の要望や状態に応じて、臨機応変な対応を心掛けています。入浴剤の使用や、足のマッサージ等も行い、くつろいだ気分で入浴できるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの、夜間の睡眠状況や日中の様子を見て、ホールに設置しているソファや自室のベッドで休息してもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の情報は、ファイルに綴じ職員が目を通せるようにしている。また、服薬時には、必ず介助するとともに症状の変化があった時は、医師に連絡し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が、出来る力を活かした役割を与え、手伝ってもらう事で、本人に楽しく暮らしてもらい、利用者がやりたい事や望む事は、出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、出来ていない。	以前は散歩やドライブに出かけていましたが、感染症対策により外出を控えています。外出に代わる活動として、玄関先のベンチでの外気浴や、塗り絵や体操等プログラムの充実を図り、気分転換の機会を充実を図る取り組みに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、ホームにて立て替え、直接お金を持っていなくても、欲しい物が買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人からの電話はとりつぎ、本人と会話をしてもらい、電話をしたい時は手伝っている。また、手紙は本人に渡して、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使う場所は、常に清潔を心がけ、利用者と共に花を飾るなど、居心地よく過ごせるようにしている。	季節に合った入居者作品や花が飾られています。小上がりやソファ等、少人数で過ごせる空間があり、調査当日もソファに入居者同士が腰掛け、和やかな雰囲気でお話している様子が見受けられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりに対して、自分がいつも座る場所が確保しており、安心して過ごせるように工夫してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分の使い慣れた物や好きな物を置くなど、本人の気持ちを尋ね、その人らしく暮らせるように工夫している。	元々住居であった建物を改修した事業所の為、和室や洋室、各部屋の造りに違いがあり、個性あふれる居室になっています。使い慣れた机や椅子、テレビ等を持ち込み、配置は本人の要望を取り入れて決めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、出来る事は行ってもらう、職員が関わり過ぎないようにしている。また、危険な場合のみ介入している。		